

第1回 山口県海岸保全基本計画変更に係る技術検討会 議事要旨

日 時 : 令和6年7月18日(木) 14時~15時40分

場 所 : 山口県庁本館棟 11階 収用委員会室 (WEB 併用)

出席者 : 三浦委員長、朝位委員、柴田委員 (WEB)、篠崎委員

議事内容 : 気候変動を踏まえた計画外力の検討方針案について

【主な意見】

- 潮位、潮位偏差、波浪などの観測局が一樣ではなく、県外も多く含まれているのは、長期の海象観測データが収集できる観測局が少ないからということで理解した。
- 気象庁が公表している潮位上昇の傾向としては、1980年ごろから上昇傾向が見られると整理しており、山口県周辺の潮位上昇傾向とは概ね一致していると考えられる。
- 4℃上昇シナリオで検討を進めた場合、将来の対策規模が非現実的になる可能性があり、また日本としても温暖化対策をとることを基本としているため、2℃上昇シナリオを基本に検討を進めることが妥当と考えられる。
- 波浪高潮推算の手法について、検討結果の妥当性の検証の観点から、「A: 想定台風」、「B: 不特定多数の台風モデル」の手法を併用して検討することが望ましいとされているが、時間などの制約もあることから、A-1: パラメトリック台風モデル手法を基本とするが、最新の検討事例を収集し、慎重に進めていくこととする。

【本日議論していただきたい内容】

- ①気候変動の検討時点の設定 (目標とする年)
 - ・ 2100年を目標として計画外力を更新することで了承を得た。
 - ・ 気候変動のシナリオは2℃上昇相当を前提に検討を実施することで了承を得た。
- ②将来予想される平均海面水位の上昇量の設定
 - ・ 将来想定される海面上昇量は「日本の気候変動2020」に記載されている2℃上昇シナリオの平均値0.39mとすることで了承を得た。
- ③気候変動を踏まえた潮位偏差・波浪の設定に向けた検討方針
 - ・ 潮位偏差及び波浪の将来変化倍率を算出する方法として、A-1: パラメトリック台風モデル手法で検討を進めることで了承を得た。
 - ・ 近隣県の検討事例や他の資料 (港湾における気候変動適応策の実装方針等) を参考に、本検討結果の妥当性を確認すること。
- ④気候変動を踏まえた設計津波の設定に向けた検討方針
 - ・ L1津波を対象に設計津波水位を検討し、将来の設計津波水位は海面上昇量分を現在設定されている津波水位に加算する方法で算出することで了承を得た。